
算数・数学分科会

I 研究のあゆみ

4月23日(火)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月14日(火)	研究計画の検討	【教育館】
5月28日(火)	研究内容の検討(第1次実践)	【教育館】
6月21日(金)	研究内容の検討(第2次実践)	【教育館】
6月下旬～8月中旬	全体での会は開けなかったものの、個別に指導	
8月20日(火)	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【教育館】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

II 研究協議の概略

「AI時代を生きる子どもたちに、算数・数学の授業で育てたいこと」というテーマで意見交換が行われた。この背景には、ChatGPT等、生成AIの台頭が記憶に新しいニュースとなったことがある。これからの時代、AIに代替されないスキルや、AIと協力して作業するスキルの習得が重要だといわれている。そのため、個別最適化学習や自由進度学習、主体的・協働的な学びといった新しい教育の実現が求められている中で、同時に忘れてはならない価値観や学びもあると考えた。

今回の分科会で発表されたレポートは、子ども一人ひとりの成長を重視した実践が中心であった。具体的には、子どもの意欲を引き出す教材の工夫、考える楽しさを体験できる話し合い活動、自分の考えを広げ深める振り返り活動等が発表され、今後の授業に活用できる多くの実践例が示された。

また、「ナゴヤ学びのコンパス」を受けて、子どもが主体的に学び、自ら考える力を育むための実践が増加していることがうかがえた。個別最適化学習の実践では、全体指導と自由進度を効果的に組み合わせ、学習の流れを示すことで子どもに見通しをもたせ、一人ひとりが自分のペースで学び、興味をもって活動する姿が見られた。また、子ども自身が学びの過程を「自己決定」することの重要性が強調されていた。

このように、算数・数学教育における不易と流行を踏まえ、子どもの「現在」と「未来」を見据えた実践発表は、参加者にとって非常に有益なものとなった。

III 今後に残された課題

- 「楽しさ」や「できたという実感」といった、子どもの学習意欲を高める要素が多くのテーマで取り上げられていた。しかし、楽しさだけでなく、学習内容の深まりや理解の定着も重要である。達成感を得るためには、明確な目標設定や自己評価の機会を提供する工夫が必要である。
- 「個別最適化された学び」と、他者と協力して問題解決に取り組む「協働学習」の両立を図るため、個々のペースで学びを深めると同時に、チームで問題を解決する力を育てる授業を模索する必要がある。